

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902678		
法人名	社会福祉法人友和会		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	旭川市東光17条8丁目1-10		
自己評価作成日	平成25年1月12日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902678-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「力を入れている点」 入居者の思いを知り、その思いを生活に反映させ、その人らしく生活できるように考えている。そのために、常に入居者のそばに職員がいることを心がけ、心の動きを掴むことができるように努力している。また、入居者と家族の関係が施設での生活に大きな影響を与えることを理解していただき、家族と利用者との関係を良好に保つことが出来るように、連絡を密にして協力を受けながら介護を行っている。食事の面では、口から食べることの大切さを理解し、体調が優れない時は、3食の時間や献立にこだわることなく、その人の食べたい物を、食べたい時間に提供し、食べる喜びが体調の改善に結びつくようにしている。</p>

<看取りへの支援>

これまで医療連携と家族の協力で見取りを実施している数少ない事業所で、看護師の管理者を中心に理解を得た全職員間のチームワークのもとで、本人や家族の意向と協力を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように随時、意志を確認しながらの独自の看取りの取り組みがある。

<入居者の思いへの支援>

日頃から、入居者の思いを知り、その人らしく生活できるように、常に、入居者のそばに職員が寄り添い、心の動きを掴むことやどのような希望を持って生活したいか、日々の関わりの中で、声を掛け、把握に努めると共に、言葉や表情からその真意を推し測ったり観察するよう心がけている。いつも家族以上の愛情介護で、頭が下がりますとの家族も認める満足度の高い評価を得ている。そこには、管理者の思いで、職員各自を大切に、向上心を持って働ける職場環境を整えることに配慮・対応されている結果と考える。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居の問い合わせがあった場合は、他の入居施設を紹介したり、介護相談を受けたりして、なるべくその人に合った施設や介護サービスを受けることができるようにアドバイスを行っている。	独自の基本理念をつくりあげ、全体会議やミーティングの話し合いの中で、管理者や職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の訪問を受けたり、散歩の時に地域の人たちと触れ合ったりしている。併設されているディサービスのお祭りにも参加している。	散歩の時に地域の人達と触れ合ったり、幼稚園の訪問や事業所主催のイベントの開催を通じて、地域の人達と日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に学生のボランティアや、実習生の受け入れを行い、認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で、「多くの人に訪問していただき、入居者との触れ合いを持つように」とのアドバイスをいただき、運営推進委員の増員や、近隣の幼稚園児の訪問を受け入れている。	年6回を開催し、市担当者や町内会の参加を得ながら事業所の運営に関する報告や事業の取り組みの意見交換の場になっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として、介護高齢課から会議に参加してもらい、定期的に報告している。	市担当課や包括支援センターとは、運営などの相談や日頃の業務を通じて情報交換と連携に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を開き、話し合いを行っている。切迫性・非代替性・一時性の要件を踏まえ、拘束に該当する行為以外でも、拘束につながる危険性のある不適切なケアについては、改善するように努めている。	身体拘束委員会の話し合いの中で、管理者及び職員は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、拘束につながるような不適切なケアについては、常に、改善に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	体だけではなく、日常かける何気ない言葉で入居者を傷つけることのないように、カンファレンス等の議題にして話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加を促している。施設内でのカンファレンスでも認知症の入居者の権利擁護とはどのようなことなのか、実践を通して学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行うと共に、何か不安や疑問はないか確認している。入居後も不明なことは説明し、疑問があるままにしないように注意している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなか家族からは話せないと思うので、面会の時は必ず声を掛けるようにしている。また、面会が終わった後も、入居者や家族の要望の有無をその都度確認している。	面会時に、入居者、家族が気軽に声がけや話のできる雰囲気作りに努めている。また、要望や苦情等の受付箱を設置し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンス以外でも、職員からの提案があれば、その都度、話し合いをもち業務に反映するようにしている。	毎月のミーティング以外でも、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、朝のミーティングや日常の情報交換のなかで、意見や提案を運営やケアに反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主婦が多く、子育て中の職員もいるので、家庭と職場が両立できるように勤務を組んでいる。また、自分達の介護時術の向上が入居者の症状の軽減に結びつくことを、自覚して業務に取り組むことができるように情報を共有している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は積極的に参加を促している。子供が小さい職員は参加できないことが多いので参加した職員と情報交換を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進委員会にグループホームの管理者に参加していただき、情報を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は個人的に話す時間を多く取るようにしている。家族とも連絡を取り合い、本人の思いを確認しながら家族と協力しながら、早期に信頼関係を築くことができるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の方針や介護に対する姿勢などをお話し、気になることや、要望があれば話していただくようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者だけではなく、すべての職員が入居者の必要としていることは何かを情報収集し得たことを共有している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者のそばにいることの大切さを自覚し介護するようにしている。家族のことを話題にしたり人生の相談をしたりして、家族のように過ごすことを心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護者主導の介護にならないように、家族の希望を聞いたり相談をしたりしている。職員任せにならないように、入居者は家族の存在があるから元気に生活できることを伝えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚との面会や外出を促している。遠方から来る場合は、宿泊も受け入れ家族とゆっくり過ごすことができるようにしている。	家族や友人、知人が気軽に来訪できる環境づくりに努め、馴染みの人や場所との交流が途切れないよう支援している。また、友人や親戚との外出の機会が、多く持てるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間に一人ひとりの場所を作り、自分の居場所を確保している。入居者同士で誤解が生じることがあるので、会話を聞きながら、必要な時は介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が安心して介護を受けることが出来るように、いつでも連絡をいただければ支援することをお話している。電話でその後の様子を尋ねたり、ご家族の相談にのったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの会話を大切に思いが表出できるようにしている。本人の思いは職員同士で共有し実現できるようにしている。家族の協力をお願いすることもある。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人の思いを職員間でその情報が共有されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族については、本人や家族から情報の提供を受けている。また、サービスを利用している時は施設ケアマネなどから、情報の提供を受けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で見守りや一緒に活動を通して、本来の入居者の能力を見極めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を優先に計画を立てている。また、日々の職員が介護する中で気づきを持ち寄り、入居者の実態に即した計画になるようにしている。	本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、日々職員が介護する中でカンファレンス、モニタリングを通じて入居者の実態に即した介護計画になるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を常に意識できるように、記録盤に介護計画を張り付けている。そのことによってより実践的な計画になるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは職員が行うべきか家族が行うべきかを判断している。職員が行うことで、寂しさを助長してしまうことがあるので、安易に対応するのではなく、家族と話し合っ決めていく。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に住む(職員の家族・運営推進委員の家族)人たちのボランティアを受け入れている。近隣の保育所の園児たちとは散歩で触れ合ったり、実際訪問してもらったりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人と家族の希望で決めている。医師との関係は良好で、本人の意思や施設の要望を話し、適切な医療を受けることができるようにしている。	主治医は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤で介護職員と共にケアを行うので、一人ひとりの状態を把握しており、職員や医師との連携も取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に状態を説明し、認知症の進行を予防するため、早期に施設の戻ることができるようお願いしている。また、家族を通して病院のワーカーや医師と連絡を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	残される家族の意向を一番に考え、その都度、医師と話し合っている。家族が気兼ねなく看取りが出来るように場の提供も行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。また、これまで、家族の協力を得て、看取りの場を提供し支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の状態に合わせて、急変や事故の危険性がある場合は、前もって対応の仕方を検討し実践している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。隣接する支援ハウスの職員の協力が得られるようになっている。また、食糧などの備蓄も少量だが行っている。	スプリンクラーが設置され、年2回の避難訓練や消火訓練を実施し、隣接の支援ハウスの職員の協力体制がとれるようになっている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が日常聞いていて、自尊心を損なうような声掛けなどがある時はカンファレンスを行い、一人ひとりの課題として取り上げている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような不適切なケアのないよう職員同士で話し合い、情報を共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人的にコミュニケーションを取るようになっている。特に、通院介助や入浴、散歩などで職員と二人になる時は思いを聞く機会として大切にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や気分があるので、その人のペースを乱さないように心掛けている。特に、レクリエーションの参加を促す声掛けが強制的にならないように注意している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装をお互いに褒め、おしゃれが楽しみになるようにしている。また、毛染めなども手伝っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、入居者に食べたいものを聞き、献立に入れている。また、行事メニューも季節の物や、希望の多い献立や食材を取り入れている。準備も一部の入居者だが一緒にやっている。	食事が楽しみになるように、利用者の食べたいものを聞き、メニューが作られており、利用者が出来る範囲内で職員と一緒に準備や後片付けなどを行っている。また、行事献立も、希望の多い季節の旬の食材を取り入れた食事となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や飲み込みの力に合わせて、刻んだりとろみを付けたりしている。一回の摂取量が十分できない場合は時間に関係なく、好みの物を望む時間に提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の清掃や歯磨きの介助を行っている。うがい出来ない場合は水の摂取を促している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの着用はないが、間に合わず漏れてしまうことが多い。自分で排泄したいという意思があるので、汚れた場合は着脱の介助やトイレの掃除を行っている。居室でポータブルトイレを使っている人もいる。	排尿の間に合わない時もあるが、極力、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう誘導して自立への支援をしている。また、居室でポータブルトイレを使っている人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夏は散歩・冬は廊下歩行を促している。水分摂取も促しているが積極的に飲まない入居者が多いので、下剤で排便を調整している人もいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分の中で曜日を決めている入居者が多く、それに合わせて行っている。トイレと浴室が隣接しているので便汚染がある場合は、その都度シャワー浴等で対応している。	自分で、入浴日を決めている入居者が多いが、いつでも入れるよう、一人ひとりの希望や体調、生活習慣に応じて支援している。また、便汚染がある場合は、シャワー浴で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間で午睡する人、居室で休む人など自由に場所を選んで休息を取ることができるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	降圧剤や利尿剤の内服がほとんどなため、朝のバイタルサイン測定や排尿回数チェックやむくみの状態などを観察している。用法や用量は分包され、三食後に分けて保管している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事は好みに応じて代替品を準備している。かるたやトランプ、手芸なども一人ひとりの能力を考え、負担にならないようにしている。できる人は職員と一緒に台所の仕事を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出は一人ひとりの希望を聞きながら計画をしている。それ以外にも希望があればその都度買い物に出かけている。また、出かける場所によっては本人の希望を家族に伝え、協力を受けている。	一人ひとりの希望にそって、事業所の外出企画をはじめ、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、本人の希望で、出かける場所によっては、家族の協力も得ている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持については、自由に行っているが、物盗られ妄想がある入居者については金額を確認し、希望がない場合は少額にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人や家族が希望する時は、いつでも利用できるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁の飾り付けは季節や月ごとに換え、季節を感じるができるようにしている。居間から、トイレや台所など生活の空間が見えるような構造になって、常に誰かがそばにいるという安心感をもつことができる。	共用の空間の壁を使って、行事の写真や季節毎の飾り付けを月ごとに換えて掲示しており、共用空間が、広くゆったりしているので、利用者がゆっくりと落ち着ける家庭的な雰囲気になっている。また、不快や刺激的な臭いや光は感じることはない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのソファがあり居場所の確保に努めている。また、人間環境で支障が出た場合は、当事者の了解のもとで席替えを行っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使い慣れている物を持参していただくようにしている。特に家具は自宅ですべて使っていた物を居室でそのまま使うようにしている。	使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、自宅で使われていた日用品を持参し、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの精神・身体能力を考慮して、福祉用具を提供したり、レクレーションを行ったりしている。出来ないことを介助しながら、なるべく今の機能が低下しないように心がけている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	日々の、利用者の申し送りが徹底されていない。	日々の変化に応じた介護ができる。	記録板の個人申し送りの様式を検討する。 期間・内容・サインの項目を設ける。 新しい申し送りには付箋をつける。 全員のサインが付いた時点で付箋を外す。 期間が1～2日の場合は、全体の板を活用する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。